

人文学部 3つのポリシー (2022年度生用)

I. 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

人文学部は、現代社会の課題を発見・理解・解決する能力の育成、コミュニケーション能力の育成、そして情報リテラシーの修得を通して、学生一人ひとりが「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」と同時に、個性的、自律的な人間となることができるように、以下の3点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識と技能

講義、ゼミナールなどでの読む・聴く・書く・話すことの反復をとおして、主に社会学・教育学・英語英文学の各学問分野の知識を収集・整理・理解し、分析・表現することができるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能をもって、自ら課題を発見し、課題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。

3. 多様な人々との協創

グローバル化が進み変動していく現代社会において、異なる立場や価値観を尊重し、主体性をもって多様な人々と協力して学びあう態度を養うこと。

II. 教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

人文学部はディプロマ・ポリシーの達成のために、以下の3点をカリキュラム・ポリシーとして明示します。

1. 基礎から発展

学士課程教育に必要な基礎的な知識や技能を身につけるために、初年次教育科目を置くと共に、主に社会学、教育学、英語英文学の各学問領域に関する、基礎的知識から発展的内容を体系的に教授する科目を主専攻科目に配置します。各学問領域に即した社会で応用できる技能や能力を向上させる教育プログラムを設けます。

2. 視野の拡大

人間、文化、社会の多様性と普遍性に関する広い視野を有する豊かな人間性を培うために、全学共通教育科目、人文学部総合科目、専攻科目、関連科目等を体系的に配置します。学士課程における学習成果の集大成として卒業研究を必修とします。

3. 経験の拡充

卒業後の実社会で主体性をもって「協創」するため、様々な授業形態・方法を取り入れた科目を配置します。専門的な内容を掘り下げて研究する、少人数形態のゼミナールを専攻科目に配置します。これからの社会の変化に対応し、幅広い視野を身に付けるため、国内外での現場研修、体験実習などのプログラムを提供し、単位を認定します。

人間関係学科社会学専攻の教育方針（3つのポリシー）（2022年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人間関係学科社会学専攻は、次の3つの能力・態度を修得した者に学位を授与します。

1. 知識と技能

社会学の知識に基づく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を自ら学び考えることによって、実社会における現象や問題・課題について、社会的に理解・分析し、自身の考えを表現できるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した社会的知識に基づく視角・方法・理論をもって、自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を社会的に表現するために必要な社会的思考力・判断力・コミュニケーション能力などを有するようになること。

3. 多様な人々との協創

激しく変動していく現代社会において、自ら身につけた社会的知識を多様な科学や学問に照らしつつ、主体性を持って多様な人々と共創して学びあう態度を養うこと。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

人間関係学科社会学専攻は、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを以下のようにします。

1. 基礎から発展へ

社会学の方法・理論の成り立ちと現代的展開に関する基礎的知識を体系的に教授する科目を、主専攻科目の人間関係学科科目、社会学専攻科目に配置します。

2. 視野の拡大

広い視野を有する豊かな人間性を培うために、多角的な社会的視角から実社会を理解するための社会的視角・方法・理論を教授する多様な科目を人間関係学科科目、社会学専攻科目に配置します。

3. 経験の拡充

実社会で主体性を持って多様な人々と共創を学ぶために、社会学専攻科目に専門講義科目（応用）、専門特殊演習科目を配置し、留学やボランティア活動などの経験を社会学的方法・理論で理解・表現できる能力を養います。

教育学科の教育方針（3つのポリシー）（2022年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育学科は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるように、以下の3点をディプロマ・ポリシーとして定めます。

1. 知識と技能

教育学及び教育実践に関する確かな知識と、得意とする専攻した分野の専門的知識を修得すること。教育活動に取り組むための十分な技能を身につけること。

2. 思考力・判断力・表現力

教育現場で生じているさまざまな課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができるようになること。

3. 多様な人々との協創

教育的視点から学校・家庭・地域社会と連携・協働することによって、グローバル時代における多様な課題の解決を図ることができるようになること。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 基礎から発展

初年次から卒業年次まで少人数教育を実施し、「人間の発達と形成」に関する教育学的リテラシーの形成を図ります。誕生から成熟と死に至る時間的連なりと家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解する視点から、主専攻科目を段階的に開設します。また、学士課程における学修成果の集大成として卒業研究を必修とします。

2. 視野の拡大

「人間の発達と形成」に関して、誕生から成熟と死に至る時間的連なりと家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて理解できるよう、学際的・総合的視点から主専攻科目を開設します。

3. 経験の拡充

「人間の発達と形成」に関する生きた学びの機会として、地域社会における多様な教育実践の機会を提供します。

英語英文学科の教育方針（3つのポリシー）（2022年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

英語英文学科は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の3点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識と技能

講義、ゼミナールなどでの読む・聞く・書く・話すことの反復をとおして、言語としての英語、及び英語圏の文化の諸相に関する知識を収集・整理・理解し、分析・表現することができるようになること。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した知識と技能をもって、自らの課題を発見し、課題の解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を持つようになること。

3. 多様な人々との協創

グローバル化が進む社会において活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、主体性をもって異なる文化や価値観を等しく尊重し学び合う態度を養うこと。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

英語英文学科は、学生一人一人が円滑に大学での学修を開始し、学士課程をとおして深い学識を身につけ、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の3点を教育課程の編成方針として明示します。

1. 基礎から発展へ

基礎的な英語運用能力を修得し、専門性の高い学修に結び付けるため、初年次の英語力錬成科目から高学年次の発展的な科目へ、科目を段階的に配置します。

2. 視野の拡大

英語圏の文学・文化と英語学・英語教育学に関する専門的知識の修得にむけて、自専攻科目の中にそれぞれの分野の科目を体系的に配置します。学士課程における学修成果の集大成として卒業研究を必修とします。

3. 経験の拡充

卒業後の実社会での活動に資するため、時事問題や各種英語検定に対応した科目群のほか、語学の専門職に必要な技能を育成するための科目群を配置します。また英語圏での授業や生活を通じて、英語の実践的運用能力を向上させ、同時に幅広い国際的視野を身につけることができるように海外研修プログラムを提供し、単位を認定します。